

◆ 大村秀章愛知県知事 新春インタビュー ◆

世界トップレベルの国際アリーナが 7月オープン スポーツ・エンタメの一大拠点に

「モノづくり」と「人づくり」の交流で相乗効果を。製造業の中核圏域の核として日本経済をけん引している愛知県。2025年はコロナ禍から回復してきた経済の流れを継続、発展させられるかが課題だが、大村秀章知事は様々な取り組みが昨年から開花しつつあることを強調するとともに、起業家を育てる「人づくり」への意欲を滲ませた。昭和100年、戦後80年、愛知万博開催から20年という節目の年に愛知のさらなる飛躍を誓う大村知事に県政の展望を語ってもらった。

—新年、おめでとうございます。2025年をどのような年にしたいですか。

大村知事 明けましておめでとうございます。愛知県政はずっと継続しているので、今のこの愛知の元気な状況を引き続き盛り上げていければと考えています。

—元気な状況とは。

大村知事 リーマンショックや東日本大震災、そして新型コロナウイルスの蔓延など経済が落ち込んだ時期もありましたが、その後回復し、半導体も確保され、地域の主産業である自動車産業はずっと伸びてきています。元気さの一つの指標が愛知県の製造品出荷額ですが、日本全体が横ばいに推移している中、愛知の2022年は52兆4,098億円で46年連続日本一、過去最高額を更新しています。2位の大阪府（20.2兆円）以下を大きく引き離しています。2023年の輸出入でも愛知は輸出が20兆1,699億円と、大阪（約12兆円）、東京（約8兆円）を抜



いてトップで、全国シェアの20%を占めました。また、輸入は10兆134億円で、東京都、大阪府や日本全体が赤字なのに対して、愛知の貿易収支は10兆1,565億円の黒字です。統計上のタイムラグがありますが、製造品出荷額は2023年も日本一になるのは確実で、「モノづくり愛知」は日本経済を引き続きけん引してきています。

—2024年を振り返ると、どんな年でしたか。

大村知事 「ジブリの大倉庫」「青春の丘」「どんどこ森」「もののけの里」に加えて、